

別記1

業務概要書

1 業務概要

(1) 業務名

費用対効果分析業務委託（河改・改良）

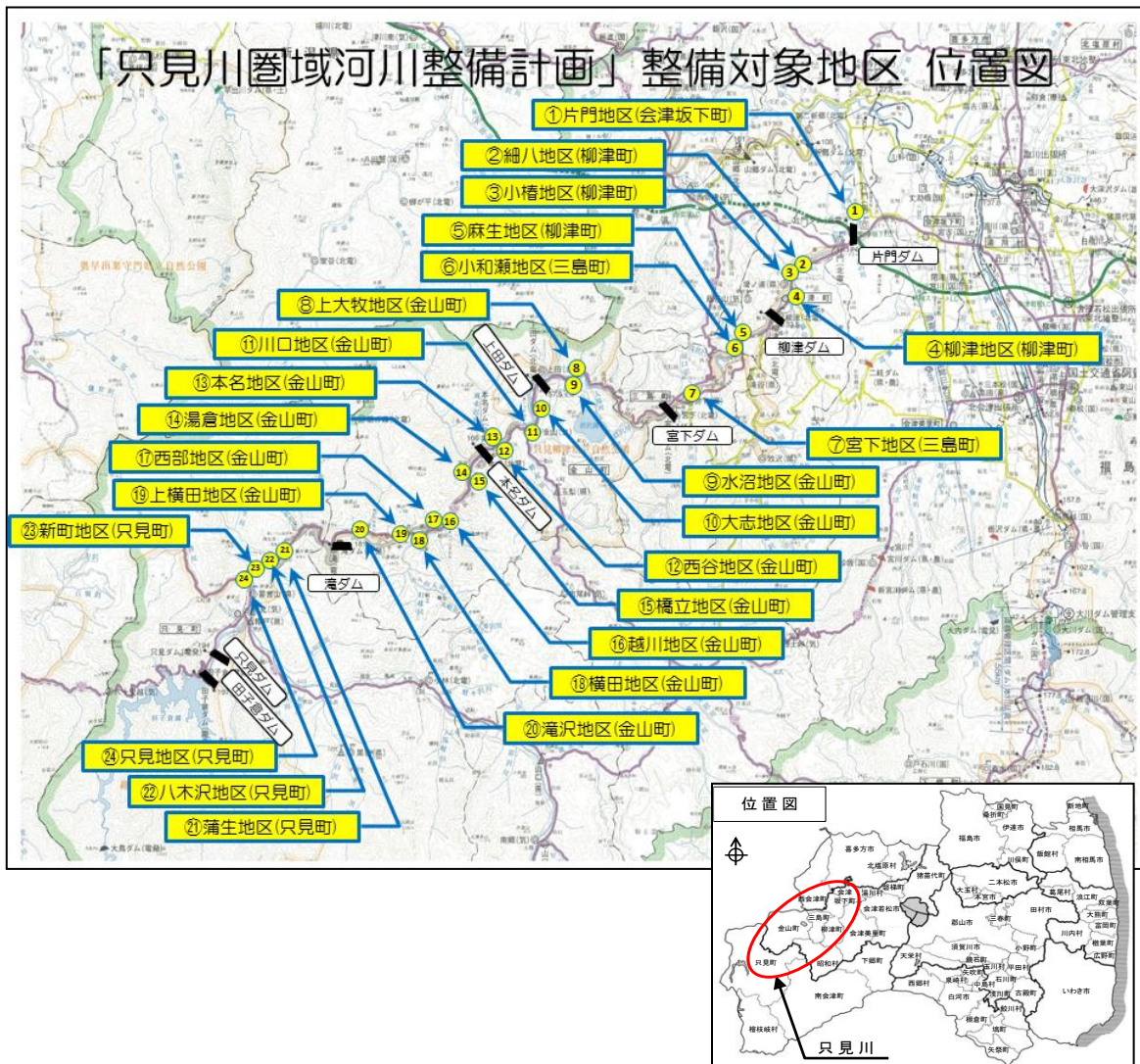
(2) 業務箇所

河沼郡柳津町大字細八地内外 細八地区外（只見川筋）

(3) 業務箇所に関する管内

会津若松建設事務所管内、県内

【位置図】



(4) 業務内容

- ① 種 別 土木設計
- ② 業務内容 費用対効果分析業務 N=1式
- ③ 工期 (予定) 令和6年9月～令和7年3月

2 業務の背景・目的・課題等

(1) 業務の背景

只見川は、平成23年7月新潟・福島豪雨により甚大な被害を受け、災害復旧事業については完了した。さらには、再度の浸水被害防止や軽減を図るために「只見川圏域河川整備計画」(以下、「河川整備計画」という。)を見直し、平成27年3月に国から認可を受け、整備事業に着手した。

本河川は、尾瀬を源流とする川であり流域面積2,793km²、流路延長145kmの阿賀野川の最大支川である。流域内に広い平地は無く、大半は森林であり宅地等の割合は少ない。そのほとんどが只見川及び各支川沿いの河岸段丘に集中しており、人口減少率及び高齢化率が高く、過疎・高齢化が顕在化した地域である。また、本河川には多くの利水ダムが階段状に設置されている。

このことから、費用対効果分析を行うにあたり、流域の特性を踏まえ広範囲に点在する宅地等を適切に評価し業務を実施する必要がある。

(2) 業務の目的

本業務は、河川整備計画に基づく只見川河川整備事業について、実施段階における事業の必要性や効果等の視点から、流域の特性を踏まえ、費用対効果の分析を行い事業の妥当性の評価資料を作成するものである。

(3) 業務の課題

- ① 本河川は、流域内に平地が少なく本川及び各支川の河岸段丘に資産が点在しており、本川には利水ダムが階段状に連続していることを踏まえた適切な評価の実施。
- ② 地形的条件に加え、過疎・高齢化が顕在化した地域という社会的条件を踏まえた適正な資産評価の実施。

3 評価テーマ

(1) 流域特性を踏まえた費用対効果を分析する着目点

(2) 地域の実情を踏まえた適正な資産評価